

# 序 說



# 第1章 調査概要

## 第1節 調査に至る経緯

長野原町横壁地区は町の北東部、東西に流れる吾妻川の右岸に位置している。横壁地区を含むこの地域は吾妻川を中心とした南北の山地地形が迫る山あいの地で、河川沿いの下位・中位段丘は八ッ場ダムによる水没予定地である。横壁地区はこのダム対象地域の中で太古からのランドマークの要素を備えた岩峰丸岩(標高1,124m)が聳え立ち、かつ丸岩の麓には北斜面にもかかわらず、横壁中村遺跡をはじめとして多くの遺跡を包含していることが知られている。

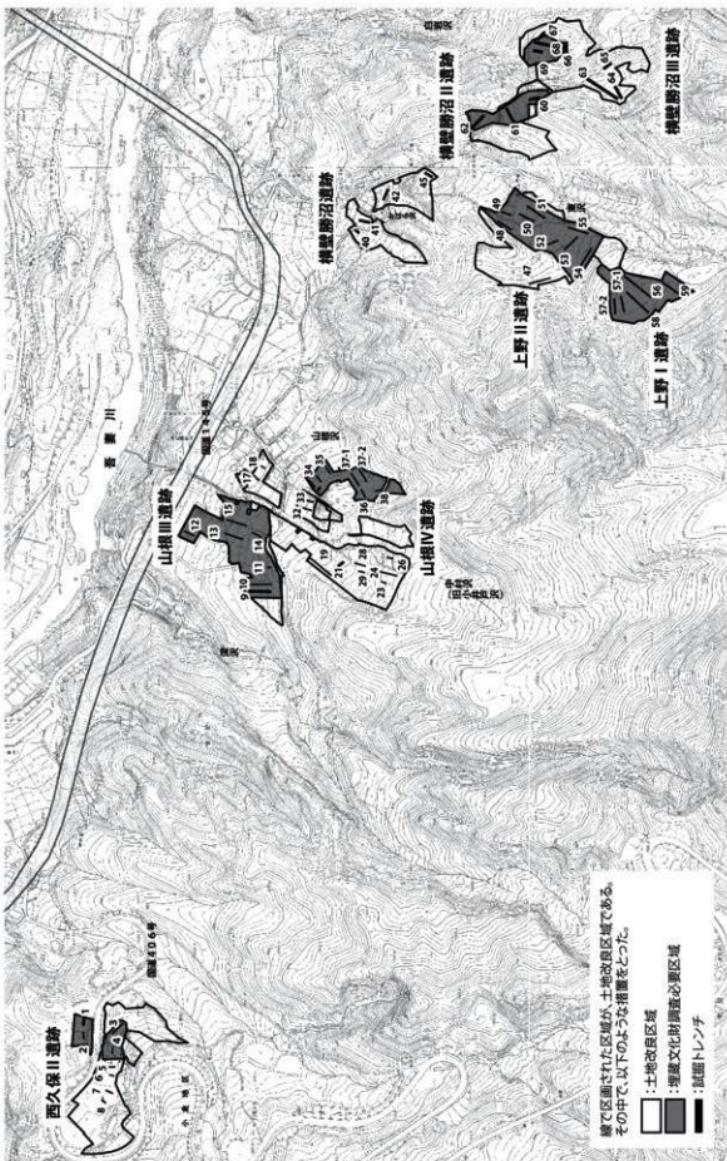
当地区は古くからの農村風景を色濃く残す地域であったが、ダム関連の生活再建事業で水没地区からの移転代替地造成工事や国道付替工事および町道新設(拡幅)工事等の開発が計画され、この開発によってかつての水田や畑が分断されることから、残存農地の整理、農業経営の向上、農地の保全、並びに農村環境の近代化を目的とした土地改良事業の必要性が高まった。平成28年8月に「横壁地区土地改良事業推進協議会」が設立され、役員会により具体的な計画構想を検討し始めた。

平成28年12月初旬に群馬県八ッ場ダム水源地域対策事務所農林係および長野原町役場産業課農林係より横壁地区土地改良事業の計画書が示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、長野原町教育委員会教育課文化財係に照会があった。対象地は小規模ながらほぼ全域に周知の包蔵地が点在することから試掘確認調査の必要がある旨を説明し、事業採択前の埋蔵文化財の取扱いを決定するための確認調査ということで調査実施の合意を得た。文化財保護法第94条第1項の規定により、平成29年3月1日付けで関係書類(『開発に伴う文化財調査願書』・『発掘届』)が提出された。同年3月14日~11月8日に教育委員会文化財担当の立会いのもと、対象地内に71本の試掘坑(トレチ)を設定し(実施は63本)、遺構の有無および土層の堆積状況の事前調査を行った。その結果、63本中24本で縄文時代~平安時代を中心とした遺構・遺物が検出され、地点毎の遺跡の内容及び表土から遺物包含層まで深さを大まかに把握することができた(第1図・第1表)。この結果を踏まえ、土地改良事業の事業計画範囲(ほ区)や工法の工夫などの限り合わせ協議を重ねて、各遺跡での調査対象面積を確定していった。それと併行して調査計画の策定、調査体制の検討や調査費用の積算、地権者の承諾、委託契約締結などを経て、調査体制は長野原町直営ではあるが民間発掘会社の調査員支援というかたちを採り、調査期間は平成29年度から平成31(令和元)年度までの全体で3年計画(最初の2年は発掘調査および整理調査、最終年度で報告書作成)で、平成29年10月2日より先行して試掘調査を実施した西久保II遺跡・山根IV遺跡の本調査を実施する運びとなった。

## 第2節 試掘確認調査の成果(第1・2図/第1・2表/PL1)

上述した通り、平成29年3月14日~11月8日まで事業予定地内に71本の試掘坑(トレチ)を設定し、遺構の有無および土層の堆積状況を記録する試掘確認調査を実施した。障害物等で實際には63本の実施に留まつたが、そのうち24本で縄文時代~平安時代を中心とした住居跡や土坑などの遺構が検出され、テンバコ8箱分の遺物が出土した。その当時の開発予定面積88.082m<sup>2</sup>に対して試掘確認調査面積は7遺跡(横壁勝沼II・III遺跡は新規登録)、2,161.5m<sup>2</sup>であった。この調査概要是以前報告しているので詳細はそちらを参照願いたい(長野原町教育委員会 2018・2019)。

この試掘確認調査結果に基づき、掘削工事予定箇所の遺構・遺物検出範囲、並びに道路敷設予定箇所の遺構・遺物の検出範囲、障害物等で調査に入れなかった包蔵地範囲内を大まかな発掘調査区域とし、42,200m<sup>2</sup>を最終的な調査対象面積とした。この調査結果で得られた各遺跡の様相は発掘調査のそれと比べてみると概ね合致しており、調査前に実施した当該調査の有効性が追認されたといえよう。ただし、湧水のため試掘確認調査が及ばなかった箇所で工事中の不時発見があり、山根V遺跡として新規登録・本調査実施したことと付記してお



第1図 楠壁地区試掘調査トレンチ位置図(1/7,500)

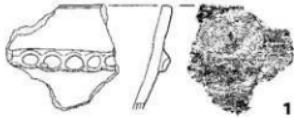
く。ここでは当該調査で出土した遺物のうち、帰属する遺構が特定できなかったものを中心には掲載する。

第1表 横壁地区試掘確認調査トレンド一覧表

トレンド名	遺跡名	調査区分 内／外	検出遺構	表土からの深さ	掲載の有無	備考
1	西久保II	内	土坑1基・平安陥し穴1基	0.5～0.9 m		
2	西久保II	内		0.5 m		
3	西久保II	内	土坑1基・繩文土器片（中期末～後期初頭）	0.8～1.35 m		
4	西久保II	内	溝状遺構1条	1.6 m		
5	西久保II	外	土坑1基	0.65～1.35 m		
6	西久保II	外		1.9 m		
7	西久保II	外		1.0～1.7 m		
8	西久保II	外		0.5～1.25 m		
9	山根III	内	土坑1基	0.6～1.4 m		
10	山根III	内	土坑1基	0.95～1.3 m		
11	山根III	内		0.75 m		
12	山根III	内		0.8～0.85 m		
13	山根III	内	土坑5基・溝1条	0.7～1.0 m		
14	山根III	内		0.45～0.65 m		
15	山根III	内	土坑4基・溝1条	0.5～0.9 m		
16	—	—				
17	山根III	外		0.55～0.9 m		
18	山根III	外		1.55 m		
19	山根IV	外				
20	—	—				
21	山根IV	外				
22	—	—				
23	山根IV	外				
24	山根IV	外				
25	—	—				
26	山根IV	外				
27	山根IV	外				
28	山根IV	外				
29	山根IV	外				
30	山根IV	外				
31	山根IV	外				
32	山根IV	外				
33	山根IV	外				
34	山根IV	内		0.65～0.7 m		
35	山根IV	内	繩文土坑・繩文土器片（中期前半）	0.8～0.9 m		
36	山根IV	内	多量の焼土を伴う遺構（鍛冶関連遺構か）・土師器・铁滓	2.1 m		
37-1	山根IV	内	平安住居2軒・土師器片・須恵器	0.65 m		
37-2	山根IV	内	土師器片・須恵器片	0.6 m		
38	山根IV	内		0.65 m		
39	—	—				
40	横壁勝沼	外				
41	横壁勝沼	外				
42	横壁勝沼	外				
43	—	—				
44	—	—				
45	横壁勝沼	外				
46	—	—				
47	上野II	外		0.8～1.1 m		
48	上野II	内		0.6 m		
49	上野II	内	陥し穴1基・繩文土器	0.75 m		
50	上野II	内	住居1軒・土坑2基	0.3～0.35 m		
51	上野II	内	石圓遺構1基	0.4～0.45 m		
52	上野II	内		0.65 m		
53	上野II	内	土坑1基・焼土遺構1基・自然流路	0.9～1.95 m		

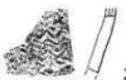
54	上野II	内	陥し穴1基・土坑4基・溝1条	0.5~0.55m		
55	上野II	内	焼土遺構1基・自然流路・鉄鏃(平安)	0.4~1.95m		
56	上野I	内		0.75~0.8m		
57-1	上野I	内	住居1軒・繩文土器・弥生土器・土師器(平安)・羽口	0.2~0.5m		
57-2	上野I	内	土坑3基・弥生土器・平安遺物包含層	0.45~1.5m		
58	上野I	内		0.75m		
59	上野I	内		0.65m		
60	横壁勝沼II	内		0.8m		
61	横壁勝沼II	内	陥し穴2基(時期不明)	0.45~1.15m		
62	横壁勝沼II	内	陥し穴1基(時期不明)・土坑1基・溝1条・繩文土器	1.1~2.05m		
63	横壁勝沼III	外	弥生土器2点	0.65~3.0m		
64	横壁勝沼III	外		0.2~2.25m		
65	横壁勝沼III	外		0.3~1.05m		
66	横壁勝沼III	外		0.75m		
67	横壁勝沼III	外		0.3m		
68	横壁勝沼III	内		1.2~1.6m		
69	横壁勝沼III	内	焼土遺構1基・土坑1基・土師器	0.5~1.3m		

3トレンチ(西久保II遺跡)



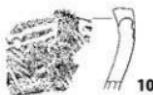
1

9トレンチ(山根III遺跡III)

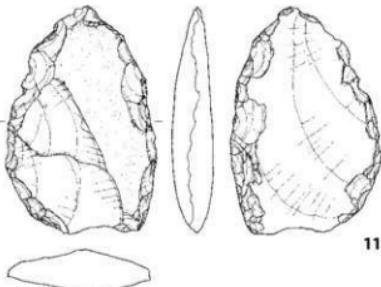


2

48トレンチ(上野II遺跡)



10



11

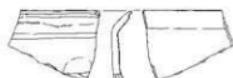
37-1トレンチ(山根IV遺跡II)



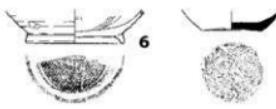
3



4



5



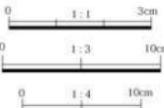
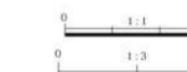
6



7



8



第2図 試掘トレンチ出土遺物実測図①(1/1・1/3・1/4)

50トレンチ(上野Ⅱ遺跡)



12

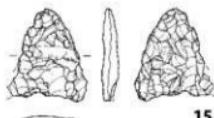


13

53トレンチ(上野Ⅱ遺跡)



14



15

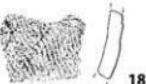


16

54トレンチ(上野Ⅱ遺跡)



17



18

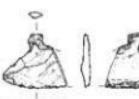
55トレンチ(上野Ⅱ遺跡)



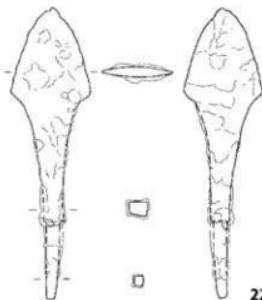
19



20



21



22

57-2トレンチ(上野Ⅰ遺跡)



23

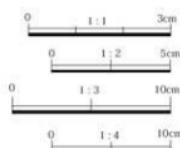
69トレンチ(横壁勝沼Ⅲ遺跡)



24



25



第3図 試掘トレンチ出土遺物実測図②(1/1・1/2・1/3・1/4)

第2表 試掘トレンチ出土遺物観察表

試掘3トレンチ（西久保II遺跡）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
2・1	1	縄文土器・深鉢	(6.5) / - / -	陶器を貼付し、縁部に工具による円形押圧文を施す。内外面ともに楕円ナメ。早期前半(縄文内口式)。	良好	砂粒	黄褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 3トレンチ

試掘9トレンチ（山根III遺跡III）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
2・2	1	縄文土器・深鉢	(4.0) / - / -	外表面に押圧文(山根文)を施す。表面つぶし。内外面斜面ハゲメのチナテ。早期前半(縄文木式)。	良好	石英・長石・砂粒	に赤い赤褐色 破片資料 (体部)	試掘 9トレンチ カクラン

試掘37-1トレンチ（山根IV遺跡II）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
2・3	1	土師器・甕	(3.6) / - / -	コウゾロ目縁部。口縁部下位に強く外反し。下位ははめ抜きである。口縁部内外ともに楕円ナメ。口縁部下位に内面を楕円斜面ハケメアリ。内面に楕円ナメで調整。内外面削り出し。	難化焰・良好	砂粒	に赤い褐色 口縁部 10%残存。	試掘 37-1トレンチ ・S101
2・4	1	土師器・甕	(4.2) / - / -	コウゾロ目縁部。口縁部下位に強く外反し。下位ははめ抜き立てる立ちがる。口縁部内外ともに楕円ナメ。口縁部下位は外輪部ナメで底面注液ナメ。粘土繊維の接合部明瞭。	難化焰・良好	砂粒	に赤い黄褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 37-1トレンチ ・S102 サブトレンチ
2・5	1	土師器・甕	(4.4) / - / -	コウゾロ目縁部。口縁部上位は強く外反し。下位ははめ抜き立てる立ちがる。口縁部内外ともに楕円ナメ。内面はは力が強され、内面が削り出されている。	難化焰・不良	砂粒	明赤褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 37-1トレンチ ・S102 サブトレンチ
2・6	1	土師質土器・甕	(2.8) / - / 8.0	黒色土器。ロコロ形態。底部回転系切りらず。内面も外方に削り出している。内面は内側に削り出している。口縁部下位に楕円ナメ。内面はは力が強され、内面が削り出されている。	難化焰・良好	砂粒	に赤い黄褐色 底面 40%残存。	試掘 37-1トレンチ ・S102 サブトレンチ
2・7	1	須恵器・杯	(1.7) / - / 5.0	ロコロ形態。底部回転系切りらず。内面は内側に削り出している。胎土に含まれる砂粒は多く無い。	難化焰・良好	砂粒	灰褐色・灰白色 底面 20%残存。	試掘 37-1トレンチ (底面) (元存)
2・8	1	須恵器・杯か鉢	(3.0) / - / -	ロコロ形態。内外面ともにロコロナメだがロコロ口部は弱く不明瞭。外面上に黒色部があり。	難化焰・良好	砂粒	灰褐色・灰白色 破片資料 (C) 底面～体部	試掘 37-1トレンチ ・S102
2・9	1	縄文土器・深鉢	(3.0) / - / -	陶器を貼付し、下位に同様な文を施す。内外面ともに楕円ナメ。中期前半(鶴坂式)。	良好	砂粒	灰褐色 に赤い黄褐色 破片資料 (体部)	試掘 37-1トレンチ ・S102

試掘48トレンチ（上野II遺跡）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
2・10	1	縄文土器・深鉢	(5.1) / - / -	内外面ともに楕円ナメ。外面に縄文文を施す。中期前半(阿玉台式)。	良好	砂粒・角閃石	灰褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 48トレンチ
2・11	1	網状石器・盤・スクレイバー	長 14.3 / 幅 0.4 / 厚 2.5	重量 387g。	-	貝冠	- 完存。	試掘 48トレンチ

試掘50トレンチ（上野II遺跡）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
3・12	1	縄文土器・深鉢	(4.6) / - / -	外面に陶器を貼付し、平行して沈線を施す。陶器下部に單耳鉢縄文を施す。中期中頃。	良好	砂粒・白色粒	白 破片資料 (体部)	試掘 50トレンチ SK02 (残)
3・13	1	打製石斧・頭・打製石斧	長 (3.8) / 幅 4.6 / 厚 2.0	重量 41.3g。打製石斧の一頭か。	-	貝冠	-	試掘 50トレンチ SK01

試掘53トレンチ（上野II遺跡）出土遺物観察表

種別	固形物	器種	法量 (底高／口径／底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側／内面)	備考
3・14	1	縄文土器・深鉢	(4.3) / - / -	内外面ともに楕円ナメ。外面には縄文系瓶底文を施す。瓶底部下に2条の楕円溝を施す。後期前半(縄文内口式)。	良好	砂粒	に赤い黄褐色 灰褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 53トレンチ
3・15	1	網状石器・盤・石器	長 (1.9) / 幅 (1.6) / 厚 0.3	重量 0.9g。平基。	-	黑曜石	- 完存。	試掘 53トレンチ
3・16	1	土師器・甕	(4.1) / - / -	コの字状口縁部。内外面ともに楕円ナメ。外表面脚楕円ハケメアリ。内面スリット有。	良好	砂粒・白色粒	に赤い黄褐色 白褐色 破片資料 (口縁部)	試掘 53トレンチ

試掘 54 トレンチ（上野 II 遺跡）出土遺物観察表

辨別名	固形名	器種 (高さ・口径/底径) (cm)	法量 (底面・口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
3-17	1	縄文土器・ 深林	(4.5) /-/-	外面に質美斜線文を施す。無節 R と無節 L の反正の合併。前頭切道。	良好	石英	に赤い褐色 (口縁部)	破片資料 (口縁部) 54 トレンチ C 破片資料 (全体部) 54 トレンチ C
3-18	1	縄文土器・ 深林	(4.2) /-/-	外面上に單節 RL 縄文を施す。前頭切 道か。	良好	砂粒	黒褐色/灰褐色 (全体部)	54 トレンチ C

試掘 55 トレンチ（上野 II 遺跡）出土遺物観察表

辨別名	固形名	器種 (高さ・口径/底径) (cm)	法量 (底面・口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
3-19	1	縄文土器・ 深林	(4.7) /-/-	内面横幅ナナ。外面は楕円条文を施した 後削り位の条文を施す。後削前半(削 之内式削行)か。	良好	砂粒	褐色/黒褐色 (全体部)	破片資料 (全体部) 55 トレンチ C
3-20	1	灰釉陶器・ 壺	(2.8) /-/-	ロウ口整形。内外面ロクロナナ。内面の 蓮元焰・聖焰	白色粘 土	灰白/白 風オリーブ	破片資料 (口縁部) 55 トレンチ C	55 トレンチ C
3-21	1	割片石器・ 鉢・石器	長 3.3 / 厚 0.5	重量 6.8g。	-	圓錐	-	刃部先端部欠 け 55 トレンチ C
3-22	1	鉄製品・ 鉢	長 12.3 / 厚 3.3 / 厚 0.8	重量 43.5g。轟身の広い脚屈Ⅱ式。	-	-	-	ほぼ完存。 55 トレンチ C

試掘 57-2 トレンチ（上野 I 遺跡）出土遺物観察表

辨別名	固形名	器種 (高さ・口径/底径) (cm)	法量 (底面・口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考
3-23	1	割片石器・ 鉢・石器	長 (1.8) / 厚 1.4 / 厚 0.7	重量 1.5g。	-	黒曜石	-	完存。 57-2 トレンチ C

試掘 69 トレンチ（横壁勝沼 III 遺跡）出土遺物観察表

辨別名	固形名	器種 (高さ・口径/底径) (cm)	法量 (底面・口径/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外側/内面)	備考	
3-24	1	土器器・ 壺	(10.4) /<16.6>/ /-	コの字状口縁型。外側面とも口縁部は指 押されたち鍋なナダ。内面頭部から肩部 は削りえられた楕円形。内面底部 指押部は丸く、外側は削りえられた 頭部から肩部は楕円形。ハケズリ・肩部 平削れハケズリで、体部上半は頭部のハ ケズリをそれを削す。外側口縁部から 体部にかけて指頭注が残る。内面口縁 部赤褐色。	難化焰・ 良好	砂粒	に赤い褐色 (口縁部)	口縁部～体部 20%残存。 (SI01)	試掘 69 トレンチ C (SI01)
3-25	1	土器器・ 壺	(7.9) /<19.6>/ /-	外側口縁型。内面は口縁部から頭部にかけ てナダ。頭部から体部はヨコナデ。	難化焰・ 良好	石英・角閃石・ 長石・砂粒	に赤い黄褐色 (全体部)	口縁部～体部 20%残存。 (SI01)	試掘 69 トレンチ C (SI01)

### 第3節 調査の方法

#### (1) 発掘調査

今回の町営横壁土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査事業では、8 遺跡の発掘調査を実施したが、調査方法の基本的な事項は共通しているので、ここに記載する。

##### a. 表土除去

表土除去は重機（バックフォー）、排土運搬はクローラーを使用して行なった。土地改良事業に伴う発掘調査であるため、畑・水田耕作土とその下層土（合わせて表土）は分別して除去した。山根 V 遺跡・横壁勝沼 III 遺跡以外の 6 遺跡で排土置き場を調査区外に確保できなかつたため、調査区内に耕作土とその下層土を分別して置き、反転して調査を行なった。その際、各遺跡の試掘調査で確認された土層を参考に掘削を行なった。バケットの爪には鉄板を装着し、遺構を傷付けないよう配慮した。

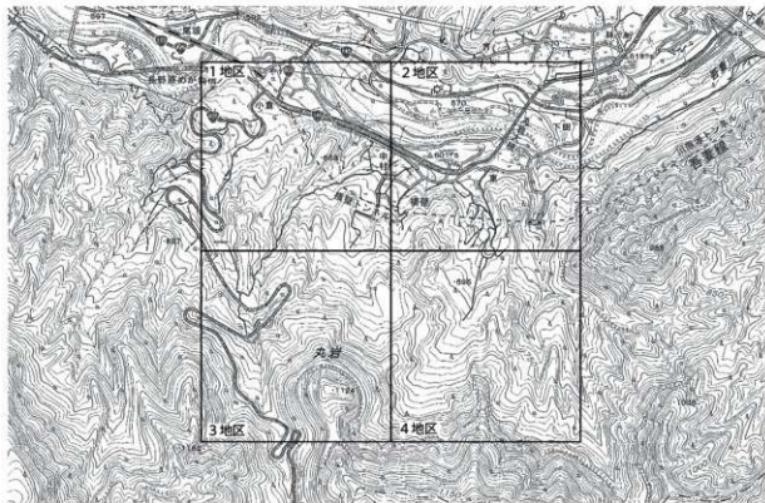
##### b. 遺構確認

遺構確認は表土除去後に行なった。確認面をジョレンを用いて人力で削り、遺構の平面形を確認した。

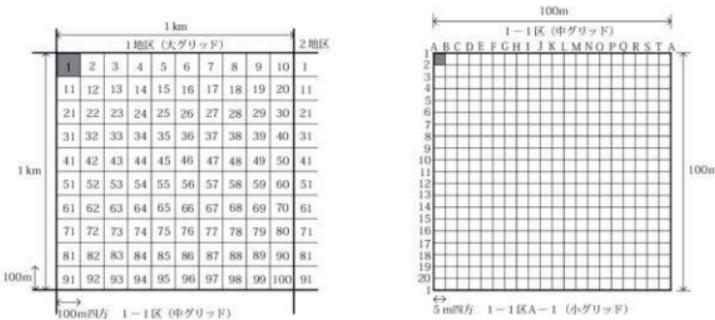
##### c. 遺構掘削及び遺物の取り上げ

遺構の掘削作業は、遺構の平面形を確定した後で、適宜土層觀察用ベルトを設定して行なった。竪穴住居・竪穴状遺構はベルトを十字に設定し、必要に応じサブトレンチも設定した。陥し穴は短軸で半截し、長軸でエレベーション作成を基本とした。

遺物の取り上げについては、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状態の良いものは出土状況図またはドット



第4図 「地区」(大グリッド)設定図(1/25,000)



第5図 中グリッド・小グリッド設定図

図を作成し、標高を計測して取り上げた。その他の遺物は、出土層位に留意して層位ごとに取り上げた。

#### d. 遺構実測図の作成および遺構の写真撮影

遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図、土層断面図（セクション図）、遺物出土状況図、完掘状況遺構平面図を作成し、必要に応じてエレベーション図（遺構縦・横断図）の作成も行なった。全体図を1/200、堅穴住居跡のカマド、個別の遺物出土状況図を1/10、その他の図面を1/20で図化した。

遺構の記録写真は、35mm小型一眼レフカメラとデジタルカメラを併用して撮影した。モノクローム・カラーリバーサルの2種類のフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で露出を変えて撮影した。空中写真撮影はドローンを用いて行なった。

#### e. グリッド設定

今回発掘調査を実施した8遺跡を網羅するグリッド設定を行なった。長野原町大字尾坂付近の国家座標(X=61000、Y=105500、世界測地系)を起点として東へ2km、南へ2kmの正方形を設定した。これを1km四方に4分割したものを「地区」(大グリッド)とし北西・東・南・南東の順に1地区から4地区とした。この「地区」を100m四方の区画で100区分したものを「中グリッド」とした。「中グリッド」をさらに5m四方の区画で400等分したものを「小グリッド」とした。本文中のグリッド表記は、「地区」と「中グリッド」を合わせて『区』とし、その後ろに小グリッドを続けている。このグリッドは今回の事業を対象に設定したものであるため、以前長野原町が実施した他事業や、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査で設定しているグリッドとは整合していない。

## (2) 自然科学分析

遺跡及び確認された遺構の性格を把握するため、発掘調査の成果に基づいて以下の項目で自然科学分析を実施した。

### a. 火山灰の分析

山根IV遺跡の平安時代竪穴住居跡でAs-Kkと考えられる層が検出された。また、上野II遺跡では埋没谷周辺や平安時代竪穴住居跡でAs-Kkと考えられる層や、別種の褐色火山灰が検出された。火山灰の種類を同定し、竪穴住居跡の出土遺物の年代と照合するため実施した。

## (3) 整理調査・報告書作成の経過

町営横壁土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務は、発掘調査から報告書刊行まで3か年の計画で実施

第3表 発掘整理調査工程表

発 掘 調 査	年	H 29			H 30									H 31			R 1						R 2											
		月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
	山根IV遺跡II																																	
	西久保II遺跡																																	
	横壁勝沼II遺跡																																	
	横壁勝沼III遺跡																																	
	山根III遺跡III																																	
	山根V遺跡																																	
	上野I遺跡																																	
	上野II遺跡																																	

基礎 整理 ・ 作 図	年度	年			H 29			H 30									H 31			R 1						R 2									
		月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
	H30	洗浄・注記 接合・復元 実測・トレース 遺物観察																																	
	H31	洗浄・注記 接合・復元 実測・トレース 遺物観察																																	
	遺物	遺物図版作成 遺物写真撮影 遺物写真図版作成																																	
	遺構	遺構図修正 遺構図版作成 遺構写真図版作成																																	
	報告書編集 （全遺跡）	本文																																	
		編集・校正・資料整理																																	

された。平成 29 年度は、発掘調査が 12 月に終了したので、平成 30 年 1 月から 3 月に出土遺物の洗浄・注記、接合・復元、実測図作成、遺物観察表作成などの基礎整理作業を行なった。平成 29 年度分の出土遺物、遺構図面・写真、遺物実測図・写真などの成果品は、平成 30 年 3 月末に納品した。平成 30 年度は、発掘調査は 12 月に終了し、翌年 1 月から 3 月に基礎整理作業を行なった。平成 31 年 4 月から 8 遺跡の資料・出土遺物の整理作業と報告書編集作業を開始し、12 月に終了し入稿した。3か年の発掘調査・整理調査・報告書作成作業の経過は第 3 表に記載した。

また、平成 30 年には、11 月 3 日の長野原町文化祭に出土遺物などの展示を行なった。

## 第 2 章 遺跡の立地と環境

### 第 1 節 遺跡の位置

本遺跡が所在する長野原町は群馬県西北部にある吾妻郡域の南西隅に位置し、東は吾妻郡東吾妻町・高崎市倉渕町、北は吾妻郡草津町・同郡中之条町、西は吾妻郡嬬恋村、南は長野県北佐久郡軽井沢町に接する。北西には草津白根山、北に王城山・高間山、南東に丸岩・普峰、南西に浅間山など、1000 ~ 2000 m 級の山々が周囲を取り囲んでいる。

吾妻郡内を東流する吾妻川は、長野県境の鳥居峠に源を発し、渋川市白井と渋川市渋川の境界付近で利根川に合流する。吾妻川・支流とも急流で川底の侵食が激しく、河岸段丘が発達している。吾妻川の段丘面は、最上位・上位・中位・下位の 4 段階に区分される。最上位・上位の 2 面は、約 21000 年前の浅間山の噴火により発生した応桑泥流堆積物を基礎とし、その上には約 15000 年前に噴出した浅間草津テフラ層 (YPk) を含む関東ローム層が約 2 m の厚さで堆積している。吾妻川からの比高差は最上位で約 80 ~ 90 m、上位が約 60 ~ 65 m、中位で 30 m 前後、下位で約 10 ~ 15 m である。群馬県北西部はこの吾妻川によって群馬県の平野部と分断される形となり、地理的にも文化的にも長野県と関わりが深い。後述のように、当地域では縄文時代から長野県との交流が深く、浅間山を中心とした文化圏が古くから形成されていた様子が窺える。

### 第 2 節 周辺の遺跡

長野原町における遺跡の調査は、昭和 29 年の勘場木遺跡の調査を始めに、昭和 38 年・47 年・48 年には群馬県教育委員会による分布調査が行われた。昭和 62 年からはハッ場ダム建設に先立ち、長野原町教育委員会によって詳細分布調査が実施され、183 か所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。以降、長野原町教育委員会による調査が行われ、平成 6 年から令和元年まではハッ場ダム建設事業に伴う発掘調査が群馬県埋蔵文化財調査事業団によって進められた。

#### (1) 旧石器時代

現在、長野原町では旧石器時代の遺跡は確認されていない。出土遺物も、柳沢城跡で遺構外遺物として、細石刃文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイバーが 1 点出土しているのみである。吾妻川流域では応桑泥流や YPk が厚く堆積しており、それより下位の発掘調査が進まない現状にあり、今後の調査の進展が待たれる。

#### (2) 縄文時代

##### ① 草創期～早期

草創期の遺跡では、石畑 I 岩陰遺跡が知られており、草創期から前期、晚期にわたる遺物が出土している。吾妻川の支流の白砂川流域に位置する居家 I 岩陰遺跡では、隆起線文系土器と押圧縄文土器が出土し、多くの

埋葬人骨が発見された。他に横壁勝沼遺跡で、槍先型尖頭器が表探されている。

早期の遺跡は、林地区の榎木II遺跡が代表的なもので、撫糸文系土器が多数出土した他、同時期の住居跡31軒が確認されている。その他立馬I遺跡・立馬III遺跡で早期の住居跡が発見され、立馬I遺跡で撫糸文系土器や沈線文系土器が出土しており、長野原一本松遺跡・幸神遺跡・坪井遺跡・三平I遺跡・三平II遺跡・尾坂遺跡でも早期の土器が確認されている。

#### ② 前期

早期に比べ遺跡数は多少増加するものの、平野部で確認されるような大規模集落は当地域では見られない。林中原II遺跡では前期初頭の住居跡が2軒確認されており、のち中期から後期にかけて大規模集落が形成される端緒となっている。同じく前期初頭の坪井遺跡では、花積下層I式土器と塙田式土器が共に出土した。主に関東地方に分布する花積下層I式土器と長野県に主に分布する塙田式土器の共伴は、関東と甲信との異なる文化圏の交流を示すものである。前期前葉から中葉では、長歟II遺跡で小規模な集落跡が検出されている。

#### ③ 中期

中期になると遺跡数は最も多くなり、集落も大型化する。中期初頭では榎木II遺跡・上原II遺跡で五領ヶ台式期の住居と土器が、中期前葉では立馬II遺跡で阿玉台式期の住居が検出されている。中葉に入ると各地で集落遺跡が見られるようになる。中でも長野原地区の長野原一本松遺跡、横壁地区の横壁中村遺跡、林地区の林中原II遺跡、川原湯地区の石川原遺跡、川原烟地区的東宮遺跡と、各地区ごとに一つの拠点的な大規模集落遺跡が出現する。いずれも後期まで存続するが、横壁中村遺跡と石川原遺跡は晩期まで存続する。その他同時期の集落遺跡として坪井遺跡・尾坂遺跡などが挙げられる。また、郷土式（註1）をはじめとした信州系の土器が坪井遺跡・長野原一本松遺跡・林中原II遺跡など多くの遺跡で確認されており、浅間山を中心とした文化圏の存在が想定できる。本書で報告する山根IV遺跡IIや上野II遺跡でも新巻・焼町類型などの信州系の土器が出土している。

中期末葉には柄鏡形敷石住居跡が見られるようになり、坪井遺跡・横壁中村遺跡では加曾利E III・E IV式期の敷石住居跡が確認されている。本書の上野II遺跡で、その祖型とみられる柄部をもたない勝坂式期の敷石住居跡が発見されている。

#### ④ 後期～晩期

後期に入ると遺跡数は減少するが、中期からの集落が継続する傾向が見られる。長野原一本松遺跡・林中原II遺跡・東宮遺跡は、中期から規模を縮小しながらも後期中葉まで継続している。両遺跡の他、林中原I遺跡・上原IV遺跡・向原遺跡などでは敷石住居跡が発見された。後期中葉以降には遺跡数は減少し、後期後葉からはさらに減少していく。

これまで晩期の遺跡はほとんど確認されていなかったが、調査の進展により徐々に増加の傾向にある。石川原遺跡で後期から晩期にかけての住居跡や配石遺構、列石、水場遺構など多様な遺構が発見された。晩期前半では、横壁中村遺跡で安行3a式期の配石が1基確認された。晩期末葉になると遺跡数は多少増加し、立馬I遺跡や横壁中村遺跡で住居跡が確認される。立馬I遺跡で長野県松本盆地を中心に分布する女鳥羽川式土器が出土した他、横壁中村遺跡では信州系の佐野式土器が出土しており、中央高地との関わりを窺わせる。川原湯勝沼遺跡では、晩期末（氷I式中～新段階併行）の埋設土器が発見されている。

### （3）弥生時代

弥生時代の遺跡も数は少ないが、縄文時代晩期末葉～弥生時代中期前半の資料は増加傾向にある。弥生時代前期から中期では、横壁中村遺跡で前期の住居跡や土坑などの遺構、前期～中期の土器（註2）が報告されている。上原I遺跡では、弥生時代前期と考えられる渦巻文を持つ小型壺が発見された。施文方法などにおいて東北の影響が見られ注目される。中期には遺跡数がやや増加する。久々戸遺跡では、中期初頭の土坑と土器が、上原III遺跡では埋設土器を含む中期初頭の土器が数点出土している。また立馬I遺跡では中期前半～後半の住居跡や後半の土器棺墓、林中原II遺跡では中期前半の住居跡や土坑が確認された。後期に入ると遺跡数は減少

していく。居家以岩陰遺跡では、岩櫃山式を中心に氷Ⅱ式・箱清水式・樽式などの前期から後期にわたる型式の土器片が数点出土しており、縄文時代草創期から長期間存続した遺跡であることが明らかになっている。また、石畳遺跡で後期の土器を含む土坑が<sup>1</sup>基礎確認されている他、二社平遺跡では樽式の土器片が出土している。

#### (4) 古墳時代

長野原町内では明確に古墳と言えるものは確認されておらず、集落遺跡も希薄である。上原Ⅰ遺跡では前期の住居が検出され、東海地方西部系のS字状口縁台付甕や埴形土器が出土している。下原遺跡・林宮原遺跡・上原Ⅳ遺跡では、後期の住居跡が検出された。中でも下原遺跡では、住居内から滑石製の白玉が出土している。

#### (5) 奈良・平安時代

奈良時代と断定できる長野原町の遺跡は現時点では存在しない。

平安時代には遺跡数が急激に増え、吾妻川左岸を中心とした集落遺跡が各地で確認される。中でも9世紀後半から10世紀前半の集落が多く見られ、上ノ平Ⅰ遺跡、榆木Ⅱ遺跡、中棚Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡などが知られる。榆木Ⅱ遺跡や中棚Ⅰ遺跡からは墨書き土器が多数出土した。上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡では鍛冶工房跡と考えられる遺構が確認されており、鍛冶関連施設や職人が遺跡周辺に存在したことが推定される。

#### (6) 中世

代表的な遺跡として、城館では丸岩城跡・柳沢城（横壁城）跡・長野原城（箱岩城）跡・金花山砦跡などが挙げられる。丸岩城の支城である柳沢城跡では一部発掘調査が行われており、郭跡や堀切などが確認された。林中原Ⅰ遺跡では、林城の堀・石垣・池などの他、68軒もの中世掘立柱建物跡が発見されている。

近年の調査により集落遺跡も増加の傾向にあり、三平Ⅱ遺跡・東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡・榆木Ⅱ遺跡・林中原Ⅱ遺跡など、吾妻川左岸を中心に掘立柱建物跡を持つ集落遺跡が分布している。

#### (7) 近世

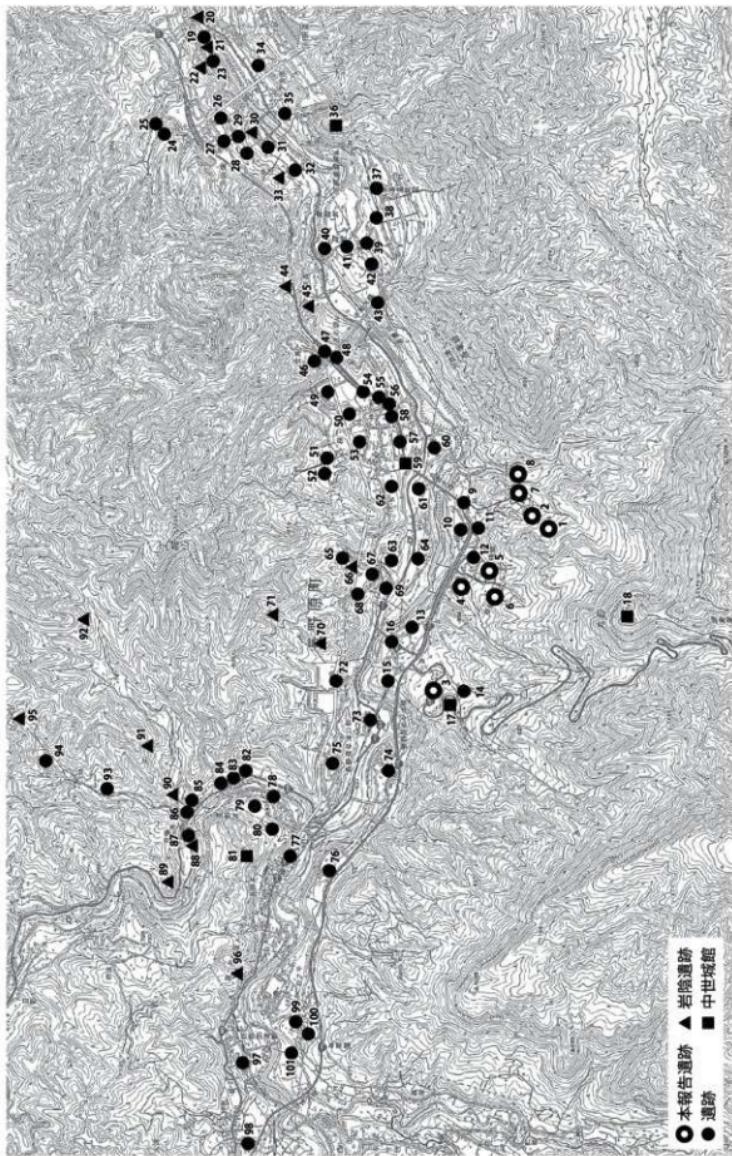
吾妻川流域では、天明3年（1783年）の浅間山噴火に伴う泥流堆積物下の遺跡がよく保存されている。東宮遺跡、西宮遺跡、石川原遺跡では当時の村全体が調査されており、他に町遺跡、尾坂遺跡、小林家屋敷跡などでは民家跡が確認された。中でも東宮遺跡では屋敷跡が7棟発見されたが、建材や木製品などがわめて良い保存状態で残されている。河岸段丘面では集落遺跡が多数発見されており、榆木Ⅱ遺跡、下原遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡などに代表される。東原Ⅲ遺跡では、泥流下ではない江戸時代後期の礎石建物1軒が検出された。

他に特徴的なものとして畠跡があるが、それらが良好に残された例として町遺跡・久々戸遺跡・尾坂遺跡・中棚Ⅱ遺跡・横壁中村遺跡などが挙げられる。また上ノ平Ⅰ遺跡では、人骨を伴う墓坑群が発見されており、当時の埋葬習慣が窺える事例となっている。

#### 註

- (1) 桜井秀雄氏が提唱された型式で、未だ研究途上の段階にある（桜井2000）。小諸市郷土遺跡を標識遺跡とし、佐久盆地・上田盆地を中心とした浅間山周辺に分布する。鱗状の短沈線文を特徴とし、概ね加曾利Ⅱ式～加曾利Ⅳ式に併行する。
- (2) 当地域の弥生土器は出土数が少なく、型式や器種の判別出来ないものも多い。そのため、前期、後期など大まかな時期のみを記すに留めた。

第6図 通路の位置と周辺の遺跡(1/35,000)



第4表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	町名	種別	時代	概要		備考	
					本遺跡	周辺		
1	上野I遺跡	21	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成29・30年度調査(町)。平安時代の住居跡、陥し穴など。	文献2,36		
2	上野II遺跡	22	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成29・30年度調査(町)。縄文中期の住居跡、平安時代の住居跡、陥し穴、礫など。	文献2		
3	西久保I遺跡	32	その他の遺跡	平安	本遺跡、平成29年度調査(町)。平安時代の陥し穴。	文献2		
4	山根三遺跡	29	集落跡	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成16-17・29～31年度調査(町)。平成10-15-18-20年度調査(事)。文献2,16,17,36,105,119,175	文献2,16,17,36,105,119,175		
5	山根IV遺跡	30	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成19・29・30年度調査(町)。縄文中期後半の住居、土坑など。	文献2,17,36		
6	山根V遺跡	225	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成20-29・30年度調査(町)。水槽遺構、平安時代初期の土器。	文献2,17,36		
7	横壁塀沿II遺跡	123	その他の遺跡	平安	本遺跡、平成29・30年度調査(町)。横壁塀沿II。	文献36		
8	横壁塀沿II遺跡	224	その他の遺跡	平安	本遺跡、平成29・30年度調査(町)。平安時代の住居跡、陥し穴。近世の石塁など。	文献36		
9	横壁塀沿II遺跡	23	集落跡	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成6・7・9年度調査(事)。縄文土器群。埴輪形尖底器1点を採。平安往住跡。文献2,1,205,175「県通路地図」。No.3318 旧勝沼通路(東平野跡)	文献2,1,205,175「県通路地図」。No.3318 旧勝沼通路(東平野跡)		
10	横壁中村遺跡	24	集落跡	縄文・弥生・平安	中世・近世	本遺跡、平成8～18・30年度調査(事)。縄文中期後半～後期を中心とした砾点集落跡。平安初期も含めて250以上に棟出。中世は立柱建築跡、礎石建物、123.1～29～132.135,139,142,173,174.191～193.192,121	文献2,1,205,175「県通路地図」。No.3318 旧勝沼通路(東平野跡)	
11	山根I遺跡	26	散布地	縄文・平安	本遺跡、平成28・29年度調査(町)。磨製石斧、石器など。	文献2,1,233,36「県通路地図」。No.3318		
12	山根II遺跡	28	散布地	平安・近世	平安時代の散布地。	文献2		
13	西久保I遺跡	33	集落跡	縄文・弥生・平安	平成6-10-12-29年度調査(事)。縄文中期末葉の敷石住居跡、水槽造構など。文献2,105,163,184,185,211	文献2,105,163,184,185,211		
14	西久保II遺跡	33	散布地	不明	本遺跡、平成8-16・26年度調査(町)。平安時代後期から天明泥流下の堆积。泥流の末端に堆积。	文献2		
15	西久保III遺跡	226	その他の遺跡	縄文・平安	本遺跡、平成8-16・26年度調査(町)。平安時代初期立柱建築跡、平安時代後期、天明泥流下の堆积。泥流の末端に堆积。	文献2,137,178,180		
16	西久保V遺跡	222	集落跡	縄文・弥生・中世	本遺跡、平成27年度調査(町)。平成28・29年度調査(事)。天明泥流下の水田跡。	文献33,163,183～185,210,211		
17	横城跡	35	城跡	縄文・中世	本遺跡、平成4-5年年度調査(町)。中世の阶跡、切り土、土器、陶器、石器などを提出。	文献2,1,25,41,46,50		
18	丸堀城跡	34	城跡	縄文・中世	本遺跡、平成7-9・10・29・31年年度調査(事)。天明泥流下の堆積。文献前期包含層。	文献2,1,24,46		
19	右堀城跡	210	城跡	縄文・中世	本遺跡、平成7-9・10・29・31年年度調査(事)。天明泥流下の堆積。文献前期包含層。	文献2,105,184,211		
20	石畠I岩塙	9	墓	縄文・中世・近世	本遺跡、平成53年度調査(員)。平成29-31年度調査(事)。縄文初期～晚期の土器、石器多量。砾点柱建物跡。	文献2,184,211		
21	石畠II岩塙	10	墓	その他の遺跡	本遺跡、平成53年度調査(員)。平成29-31年度調査(事)。縄文初期～晚期の土器、石器多量。砾点柱建物跡。	文献2,184,211		
22	一社平削跡	11	その他の遺跡	不明	本遺跡、平成53年度調査(員)。平成29-31年度調査(事)。砾点柱建物跡。	文献2		
23	二社平削跡	209	散布地	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。弥生後期土器群。天明泥流下の堆積。	文献44,136,137,183～185,210		
24	温井I遺跡	2	散布地	縄文・平安	本遺跡、平成26年度調査(町)。平成27年度調査(事)。温井I。	文献2		
25	温井II遺跡	2	散布地	縄文・平安	本遺跡、平成26年度調査(町)。平成27年度調査(事)。温井II。	文献2		
26	三平I遺跡	3	集落跡	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。弥生後期土器群。天明泥流下の堆積。	文献2,179,180,212		
27	三平II遺跡	4	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。温井II。	文献2,116,173		
28	上ノ平I遺跡	5	集落跡	縄文・平安・中世	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。縄文中期中葉～後期切削住居跡、幅広多數。文献2,134,147,151,153,175,176,180,200,210	文献2,134,147,151,153,175,176,180,200,210		
29	上ノ平II遺跡	6	散布地	縄文・平安	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。温井III。	文献2		
30	三ツ堂若跡	12	その他の遺跡	近世	本遺跡、平成8-10・18-29・30年度調査(事)。温井III。	文献2,188,210		
31	東宮通跡	208	集落跡	縄文・近世	本遺跡、平成7～9・19～21・26～31年度調査(事)。縄文中期中葉～後期切削住居跡、幅広多數。文献2,105,134,135,149,151,151,176,177,178,181～185,202,210～215,220,222,225,227,231,233	文献2,105,134,135,149,151,151,176,177,178,181～185,202,210～215,220,222,225,227,231,233		
32	西宮通跡	7	集落跡	縄文・平安・近世	本遺跡、平成26～31年度調査(事)。天明泥流下の堆積と付埋建物。泥流堆積。	文献2,152,177,181～185,202		
33	西宮若跡	13	その他の遺跡	近世	本遺跡、平成26年度調査(事)。西宮通跡、石造物を埋めたための土台、陶磁器、小便器など。	文献2,152		
34	下湯原通跡	217	集落跡	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成27～29・31年度調査(事)。縄文中期の土坑。平安時代の住居跡、天明泥流下の堆積。	文献2,136,157,182～184,210,211,212		
35	西ノ上通跡	212	その他の遺跡	縄文・中世・近世	本遺跡、平成16-27年度調査(町)。平成14-27・29-31年度調査(事)。天明泥流下の堆積。	文献2,183,107,162,182,184,185,211		
36	金花山戦跡	207	集落跡	中世	本遺跡、平成27年度調査(町)。堀塹などを確認。明治時代の「川原瀬渾眞図」に「下ノリデア」との記載あり。	文献2		
37	川原瀬中原I遺跡	16	散布地	縄文	本遺跡、平成16年度調査(町)。チート片出土。	文献2,19「中中原I遺跡」		
38	川原瀬中原II遺跡	18	散布地	縄文	本遺跡、平成17年度調査(町)。	文献2,19「中中原II遺跡」		
39	川原瀬中原III遺跡	19	散布地	縄文・平安・近世	本遺跡、平成28年度調査(事)。縄文中期後半住居跡、通物包層、平安の陥し穴。	文献2,19「中中原III遺跡」		
40	前原通跡	210	その他の遺跡	近世	本遺跡、平成29年度調査(事)。天明泥流下の堆積。	文献2,184,185,211		
41	右川原通跡	17	集落跡	縄文・平安・中世	本遺跡、平成20-25-31年度調査(町)。縄文中期～後期大規模複数築跡。後期の配石。文献2,156,177,182～185,202,210～212,216,223,231	文献2,156,177,182～185,202,210～212,216,223,231		
42	北入通跡	20	散布地	不明	チャート片、石英集。	文献2		
43	川原瀬御浜通跡	206	散布地	縄文・平安・近世	平成9・15・16・28・30・31年度調査(事)。縄文初期の埋甕2基。平安住跡。	文献2,105,109,164,173,183,185,186,210		
44	久沢沢I泊跡	53	その他の遺跡	不明	久沢沢I泊跡。	文献2		
45	久沢沢II泊跡	54	その他の遺跡	不明	久沢沢II泊跡。	文献2		
46	立馬I遺跡	37	集落跡	縄文・弥生・平安	本遺跡、平成13-14-17年度調査(事)。縄文早期前半住居跡、包層類多物多。晚中期住跡、弥生中期住居跡、複数基。平安住跡のほか、縄文～平安の陥し穴多數。	文献2,114,174		
47	立馬II遺跡	213	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成14年度調査(事)。縄文中期初期～後半平野住跡、11軒。縄文早期包層屢出。	文献111,199		
48	立馬III遺跡	215	集落跡	縄文・平安	本遺跡、平成14年度調査(事)。縄文中期初期～後半平野住跡、11軒。縄文早期包層屢出。	文献126,176,201		
49	花連通跡	205	集落跡	縄文・平安	平成10年～12年調査(事)。平安住跡のほか、陥し穴多數後品。	文献2,105		

50	上原I 通跡	41	集落跡	縄文・平安・近世	平成 18・23・24 年度調査(町)、平成 9・24 年度調査(事)。縄文早期末～中期初頭・中期後半住居跡、弥生前期末土坑。古墳前往跡、中期土坑、平安住居跡、窯穴などを検出。	文献 2,18,26,31,105,144,179	
51	上原II 通跡	42	散布地	平安	平成 18・23 年度調査(町)、平成 16 年度調査(事)。縄文中期前頭窯穴状遺構、中期後半土坑、土器片、火打石等。	文献 2,18,31,173	
52	上原III 通跡	43	集落跡	縄文・弥生・平安	平成 18・23 年度調査(町)、平成 16・27・29 年度調査(事)。縄文中期後半包含層、弥生中期土坑、平安住居跡、土器片、石器片等。	文献 2,18,31,144,148,180,182	
53	上原IV 通跡	44	散布地	縄文・近世	平成 14・18・20・24 年度調査(町)、平成 15・17・21 年度調査(事)。縄文中期前頭窯穴状遺構、後期後半住居跡、配石石垣跡、晚期・弥生含む古層、古墳後期後半住居跡、近世層等。下層、鹿骨、鳥糞、石柱、石碑等。	文献 2,12,18,20,31,119,137,178	
54	東原I 通跡	38	散布地	縄文・平安・近世	平成 17・18・24・26 年度調査(町)、平成 20 年度調査(事)。縄文前期～中期後半の陶器・土坑、平安住居跡。	文献 2,17,18,28,32,133,177	
55	東原II 通跡	39	散布地	縄文	平成 17・18・24 年度調査(事)。縄文中期後半土器片、黑曜石片出土。	文献 2,133,177,212	
56	東原III 通跡	40	散布地	平安・近世	平成 18・19 年度調査(町)、平成 20・21・22 年度調査(事)。縄文早期～後期の土器片、骨器片、近世骨器等、土器・石器・木棒等。	文献 2,14,18,133,177,178	
57	林中原I 通跡	45	集落跡	縄文・平安・中世	昭和 37 年度調査(大字)、平成 14～22・30・31 年度調査(町)、平成 16・19～21・30 年度調査(事)。縄文中期前頭～後期の頸圈型住居跡、縄文前期後葉住居跡、土坑、近世の「林城」、堅穴式住居跡、区画溝、庭立柱建物群。	文献 2,12,14～18,22,31,141	
58	林中原II 通跡	46	集落跡	縄文・弥生・平安	平成 13・19・21・22・29 年度調査(町)、平成 16・18・20・21 年度調査(事)。縄文中期前頭～後期頭の頸圈型住居跡、窯跡 8 基、弥生前期末～中期前半土坑、土器片、石器片、中世の瓦器跡 4 箔、中世壁面立柱建物跡。	文献 14,51,58,161,171,173,177,178,185	
59	林城跡	50	城跡	中世	昭和 15・19・21 年度調査(事)。林城の城壁、石垣・池・庭立柱建物、中世の瓦器立柱建物跡。	文献 141	
60	下田通跡	47	集落跡	縄文・平安・中世	昭和 6・9・15・25・26・28・29 年度調査(事)。縄文時代の庭立柱建物跡、中世の瓦器等、天明泥流に埋没した民家、焼跡など。	文献 2,105,150,180,181,183～185,210～212 「南道跡地図」 No.3126 旧下原(下田)通跡	
61	下原通跡	204	集落跡	縄文・弥生・古墳	平成 12・13・15・16・29 年度調査(事)。縄文時代の柄輪型住居跡、古墳後期居跡、平安住居跡、中世の瓦器等。	文献 2,105,106,115,159,173,184,185,212	
62	林宮原通跡	48	集落跡	縄文・古墳	平成 14～16・18～20・24 年度調査(事)、昭和 24・27 年度調査(事)。縄文中期前頭～後期包含層、古墳後期後半居跡 1 耘。平安住居跡、土坑、中世土器等。	文献 2,12,14～16,18,19,21,24,144,179,182,185 「南道跡地図」 No.3127 旧宮原通跡(神社前通跡)	
63	中棚I 通跡	49	散布地	縄文・平安・中世	昭和 18・23・28・29 年度調査(町)、平成 11・29 年度調査(事)。縄文早期の庭立柱建物跡、中世の瓦器等。	文献 2,18,31,34,107,160,184,185 「中棚跡地図」	
64	中棚II 通跡	203	その他	近世	縄文・平安・中世	昭和 11・13・15・28・30 年度調査(事)。平安住居跡、天明泥流で埋没し、文献 2,106,183,184,210～212 号、地盤、および安政九年来るらる理段跡。	文献 2,106,183,184,210～212
65	二反沢通跡	52	社寺	中世・近世	縄文・平安・中世	昭和 21 年度調査(事)。中世の草薙堂と伴う造跡(旧大乘院堂跡)、殿治跡、唐門跡、五重塔跡。	文献 2,112 「旧大乘院堂跡
66	薄沢根石堀跡	55	その他の不明	縄文	薄沢通跡、天明泥流の「家屋の石室」石仏群。	文献 2	
67	樅木I 通跡	59	散布地	縄文・平安	平成 10・21 年度調査(事)。平安住居跡、力士下屋、土坑、集石。江戸壁跡等。	文献 2,137,178	
68	樅木II 通跡	51	集落跡	縄文・平安・中世	昭和 12・13 年度調査(町)、平成 12・13・16・17 年度調査(事)。縄文早期前半(縄文)・中世の瓦器等、跡名「竹の下」を 196,199,	文献 2,10,20,12,17,13,174,194,194A 文系) - 中棚初期前頭・平安住居跡・「三間」の瓦器土器、跡名「竹の下」を 196,199,	
69	樅木III 通跡	202	散布地	縄文・弥生・平安・中世	昭和 10 年度調査(事)。縄文から平安の中期前頭の包含層。	文献 105	
70	御嶽山崩壊堆積物	57	その他の不明	縄文	御嶽山崩壊堆積物、打製石片出土。	文献 2	
71	樅木I 通跡	56	その他の不明	縄文	御嶽山崩壊堆積物、打製石片出土。	文献 2	
72	幸神山通跡	62	集落跡	縄文・平安・近世	昭和 21 年度調査(町)、平成 6・8・10・14・17・18 年度調査(事)。縄文中期前頭住居跡、中世住居、土坑、窯穴等。	文献 2,23,119,174	
73	尾坂通跡	201	集落跡	縄文・近世	平成 23・25 年度調査(町)、平成 6・7・11・18～23・25・26～30 年度調査(事)。縄文中期前頭・中期後半の土坑および土器。	文献 105,146,154,166,175～177 「尾坂跡地図」	
74	久々戸通跡	200	集落跡	縄文・弥生・平安	昭和 19 年度調査(町)、平成 12・14・15・27・28 年度調査(事)。縄文代中期末葉期の柄輪型住居跡、弥生中期後半頭の土坑および土器。	文献 19,47,106,107,148,182,183,190,210,218,234	
75	長野原一本松通跡	63	集落跡	縄文・弥生・古墳	昭和 22・23 年度調査(町)、平成 6・8～20 年度調査(事)。縄文中期前頭～後期の土坑、中世の瓦器等。	文献 12,20,23,104,118,121,125,128,138,140,173,174,176,177,180,181 「一本松通跡	
76	由斯原通跡	75	集落跡	縄文・平安・中世	昭和 23 年度調査(町)、平成 26・27・28 年度調査(事)。天明泥流で埋没した集落、生産跡。	文献 2,15,23	
77	通跡	219	集落跡	縄文・平安・中世	昭和 23～25・30 年度調査(事)。天明泥流下の通跡。	文献 32,143,179,212	
78	樅木I 通跡	72	集落跡	平安・近世・近代	昭和 16・22・24・25・(前)、近世壁石建物、天明堀、溝、ヤックラ、復旧溝、近世竹籠石垣。	文献 2,16,23,29,32,63	
79	樅木II 通跡	73	散在地	縄文・平安	奥瀬石垣、物器採集。平成 26 年度調査(町)。	文献 2,32	
80	樅木III 通跡	74	散在地	縄文	石垣、石柱等。	文献 2	
81	長野原城跡	85	城跡	中世・近世	平成 23 年度調査(事)。天明泥流下の通跡。	文献 2,28,40,41,43,46,47,65,143,205	
82	東貝溝I 通跡	64	散布地	縄文	。	文献 2	
83	東貝溝II 通跡	65	散布地	縄文	。	文献 2	
84	東貝溝III 通跡	66	散布地	縄文	平成 24・25 年度調査(町)。チャーフト探査。近世天明堀 3 箇所。	文献 2,26,29,32,63	
85	白瀬I 通跡	67	散布地	縄文	。	文献 2	
86	白瀬II 通跡	68	散布地	縄文	。	文献 2	
87	白瀬III 通跡	69	散布地	縄文	。	文献 2	
88	貝塚地帯跡	82	その他の不明	縄文	岩塙 2 力所にわたる。	文献 2	
89	油井別荘跡	81	その他の不明	縄文	岩塙 4 力石にわたる。	文献 2	
90	原家山古墳群	80	その他の不明	縄文	平成 26～31 年度調査(國學院大學)。別塙 6 口所にわたる。	文献 2,25,167～172	
91	ガンガモ池	79	その他の不明	縄文	。	文献 2	
92	野曾貯水池	78	その他の不明	縄文	。	文献 2	
93	火打石通跡	70	散在地	縄文	。	文献 2	
94	火打石通跡	71	散在地	縄文	。	文献 2	
95	火打石通跡	76	その他の不明	縄文	石碑出土。	文献 2	
96	通西若狭群	83	その他の不明	縄文	。	文献 2	
97	小林原通跡	211	集落跡	縄文	岩塙 2 力所にわたる。	文献 2	
98	坪井通跡	86	集落跡	縄文・平安	平成 3・10・12・13・24・26～29 年度調査(町)。縄文前期後頃陶器下層 I 式、文献 4,8,10～12,26,28,32,36 「坪井跡地図」	文献 4,8,10～12,26,28,32,36	
99	勝松I 通跡	126	集落跡	中世	。	文献 14	
100	勝松II 通跡	127	集落跡	縄文・平安	昭和 2・3・7・21・26・30 年度調査(町)。縄文時代の住居跡、土坑、平安時代の住居跡。	文献 4,12,22,33	
101	旧新井村跡	143	村落跡	近世	昭和 40 年度調査(町)。天明泥流に埋没した村落。雨水跡や雨水池などを検出。南側台地上に墓地が残る。	文献 2,47,49,52,60,64,91,96	

## 参考文献（第4表の文献番号に対応）

1. 長野原町 1976 「長野原町史」上巻
2. 長野原町教育委員会 1990 「長野原町の道路一町内道路評定分布調査一」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
3. 長野原町教育委員会 1990 「長野原町道跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第2集。
4. 長野原町教育委員会 1992 「長野原町道跡」坪山遺跡・長野原町埋蔵文化財調査報告第3集。
5. 長野原町教育委員会 1995 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集。
6. 長野原町教育委員会 1998 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集。
7. 長野原町教育委員会 1998 「塙原川遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第6集。
8. 長野原町教育委員会 2000 「井手遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集。
9. 長野原町教育委員会 2001 「塙原川遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第8集。
10. 長野原町教育委員会 2002 「塙原川遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第9集。
11. 長野原町教育委員会 2003 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第10集。
12. 長野原町教育委員会 2003 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第11集。
13. 長野原町教育委員会 2003 「弓木家屋跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集。
14. 長野原町教育委員会 2004 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第13集。
15. 長野原町教育委員会 2004 「林谷原川遺跡Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集。
16. 長野原町教育委員会 2005 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第15集。
17. 長野原町教育委員会 2006 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第16集。
18. 長野原町教育委員会 2006 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第17集。
19. 長野原町教育委員会 2006 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第18集。
20. 長野原町教育委員会 2010 「長野原町埋蔵文化財調査報告第19集。
21. 長野原町教育委員会 2010 「林谷原川遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第20集。
22. 長野原町教育委員会 2011 「塙の城跡Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第21集。
23. 長野原町教育委員会 2012 「塙の城跡Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第22集。
24. 長野原町教育委員会 2012 「林谷原川遺跡Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第23集。
25. 横須賀市立歴史博物館・長野原町教育委員会 2013 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第24集。
26. 長野原町教育委員会 2013 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第25集。
27. 長野原町教育委員会 2013 「弓木家屋跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第26集。
28. 長野原町教育委員会 2013 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第27集。
29. 長野原町教育委員会 2014 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第28集。
30. 熊本県立郡馬支社・長野原町教育委員会 2014 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第29集。
31. 長野原町教育委員会 2015 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第30集。
32. 長野原町教育委員会 2016 「塙の城跡Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第31集。
33. 長野原町教育委員会 2017 「塙の城跡Ⅴ」長野原町埋蔵文化財調査報告第32集。
34. 長野原町教育委員会 2018 「塙の城跡Ⅵ」長野原町埋蔵文化財調査報告第33集。
35. 長野原町教育委員会 2018 「塙の城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第34集。
36. 長野原町教育委員会 2019 「塙の城跡Ⅶ」長野原町埋蔵文化財調査報告第35集。
37. 長野原町教育委員会 2019 「塙の城跡Ⅷ・塙跡Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第36集。
38. 長野原町教育委員会 2019 「長野原町塙跡(2)」長野原町埋蔵文化財調査報告第37集。
39. 長野原町教育委員会 2020 「塙の城跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第38集。
40. 小池謙吾著編 1998 「奈良盆地の考古学」考古学出版社
41. 山崎一・大庭千夫 1972 「奈良盆地の歴史」
42. 藤田新一 1972 「郡馬原古墳群とその周辺」(郡馬原指定史跡) 善磨遺跡
43. 山崎一 1978 「郡馬原古墳群の研究」上巻
44. 市・隣之 1970 「石碑と銘刻」長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局
45. 郡馬原 1988 「郡馬原史」資料編
46. 郡馬原市教育委員会 1988 「郡馬原の中世城郭跡」
47. 長野原町教育委員会 1989 「長野原町の町並み」
48. 長野原町 1993 「長野原町の自然」八ヶ島ダム湖予定地及び関連地域文化財調査報告書
49. 郡馬原歴史博物館 1999 「郡馬原遺跡解説」(第2回企画展「天守の浅間門」)
50. 上毛新聞社 1999 「郡馬原遺跡大発見」
51. 吾妻野の町文化史料館 2000 第30回企画展「利根川流域の國文草創期」
52. かみつづの里博物館 2000 第6回特別展「『源』について考える」
53. 郡馬原市教育委員会 2001 「郡馬原の歴史(原始古墳編)」
54. 吾妻野の町文化史料館 2004 第39回企画展「『源』の失った土器」
55. 郡馬原歴史博物館 2004 第77回企画展「新見発考古遺物展 郡馬発掘情報 石室の入り口を通り抜ける…」
56. 浅間郷又文ユージアム 2004 「閑間歴史祭」
57. 郡馬原小学校学年編 2004 「塙跡を音楽」調査収集考古遺物・調査資料日録」雄山閣
- (財) 郡都理文 2005 「郡馬の道路2 篠文代」
- (財) 郡都理文 2005 「郡馬の道路7 中原～近代」
60. かみつづの里博物館 2007 第16回特別展「江戸時代、浅間山大噴火」
61. 原田昌平 2007 「日と日本の美術」495 國文堂・草創期 早明・至文堂
62. 小林透編 2008 「紀伊國文と歌詞」
63. 関 俊明 2010 「浅間山の大噴火と爪山 まつ明二年浅間山苦害遺跡ー」新星社
64. (公財) 郡都理文編 2010 「自然災害と考古学」
65. 宮坂武明 2015 「信濃をめぐる塙跡の山城と難 上野編」戌光社出版
66. 郡馬原市教育委員会 2017 「郡馬原古墳群第一文・第一墓編」
67. 関 俊明・諸田成 1999 「大明二年浅間山災に關する地城的研究」研究紀要16 (財) 郡都理文
68. 白石光則・山口弘 1999 「外輪塙・置耕出土の國文草創期土器」(郡馬考古手稿9) 郡馬土器組合
69. 富山孝子 2000 「外輪塙」置耕出土の生土器(郡馬考古手稿10) 郡馬土器組合
70. 松井秀雄 2000 「H系系の土器について」食器・難土器・器底の成立の可能性(「小諸城跡内」三子塙跡群、三田原跡群、岩下道跡、石神道跡群、郷士道跡、東丸山跡) 郡馬土器組合
71. 古賀深司・宇佐美久 2002 「郡馬町内の塙跡出土の國文草創期石器と其の遺集」(研究紀要20) (財) 郡都理文
72. 枝根雅一 2003 「郡馬町における加押塙・大正塙の構造特徴をめぐって—一田野平の中期・中期後半の再検討」國文セミナーの会
73. 石田一真 2004 「郡馬町北西面における古代の廻の構造特徴をめぐって—一田野平の中期・中期後半の再検討」國文セミナーの会
74. 関 俊明 2005 「大明二年浅間山噴火と其の影響調査と対策」(日本歴史) 吉川弘文館
75. 関 俊明 2006 「大明国慶はどう演じたか?」「さんま史料研究24」郡馬原立文書館
76. 中央防災会議 2006 「1783(天明3)年浅間山噴火報告書」内閣府
77. 鎌谷昇男 2007 「筑文時代中期の住居内蔵について—柳原中村塙跡発見」(研究紀要25) (財) 郡都理文

78. 谷藤保彦 2007 「加賀利式の系統を以くる土器群—北関東における後期担溝の様相—」第20回関文セミナー 中期末から後期初頭の再検討 編文セミナーの会
79. 関根雅二 2008 「浅間山を題材にした文部省『研究紀要26』(財) 部文理
80. 山口逸弘 2009 「上ノ平道跡-31 古墳群跡出土土器の内検討」研究紀要27 (財) 部文理
81. 藤谷幸男 2009 「八ヶ岳ダム建設地域における調査遺跡—一括作成の研究課題から出土遺物群把脈の効用—」研究紀要27 (財) 部文理
82. 黒澤昭弘・大西雅広 2009 「茨城県、栃木県、群馬県内の江戸中期における生糞と流糞」河戸後期における庶民向け陶器の生産と流通 関東・東北・北海道編
83. 山口逸弘 2010 「鶴坂式」土器に関する研究 構造的・形態的・文化的特徴 研究紀要28 (財) 部文理
84. 橋本淳 2010 「中越地方における調査早期比較土器の編年—八ヶ岳ダム建設地出土資料の位置付け—」研究紀要28 (財) 部文理
85. 鈴木健雄 2012 「畿内式土器研究の問題と課題—畿内の式の概念と既往論議式」第25回関文セミナー 編文後期土器研究の状況と課題 編文セミナーの会
86. 山口逸弘 2013 「古井戸の流域における調査式と中期後期の土器相続—加賀利式古段腰を中心として—」研究紀要31 (公財) 部文理
87. 黒澤昭弘 2012 東宮道跡—大正三年五月10日(昭和1)「[八ヶ岳]遺跡研究会報告」133江戸跡跡研究会
88. 黒澤昭弘 2013 天明一年浅間山噴火災害と震災遺跡「[八ヶ岳]考古学ジャーナル(646)」ニューサイエンス社
89. 黒澤昭弘 2013 東宮道跡における天明三年五月8日(昭和1)の種類—調査結果から推測される天明泥流被災時の状況—「研究紀要31」(公財) 部文理
90. 伊藤麻徳 小原洋子・黒澤昭弘 2013 「東宮道跡における天明泥流被災時の遺物について」研究紀要31 (公財) 部文理
91. 大塚昌彦 2014 「天明三年浅間山震災遺跡の発掘調査」群馬県立女子大学第2期駒場学センターワークショップ研究報告書 群馬県立女子大学駒場学センター
92. 山口逸弘 2015 「古井戸の中越地方における「郷式」の一種—相模一帯の式を中心として—」研究紀要33 (公財) 部文理
93. 小川卓也・畠田洋介・河野博之 2015 「北境地域における後期土器の様相」第26回関文セミナー 編文後期土器研究の状況と課題 編文セミナーの会
94. 藤谷幸男・鶴崎裕一郎・佐藤登 2016 「群馬県中越地域横山中越野山の近世道路と地図における西高麗の研究」研究紀要34 (公財) 部文理
95. 山口逸弘 2016 「湖面付近の縄繩陶器について」(研究紀要)の掲載「地域考古学」地域考古学研究会
96. 大塚昌彦 2016 「天明一年浅間山噴火災害と震災遺跡」「[八ヶ岳]考古学ジャーナル(646)」江戸跡跡研究会
97. 藤谷幸男・伊藤麻徳 2016 「南高麗の考古学的研究—鳥居と船舟と船舟地域を主にして—」「[八ヶ岳]考古学32」群馬県地文研究協議会
98. 谷藤保彦・番谷義彦 2017 「高麗山周辺の石碑・石碑・石刀等の時代別前歴記—」研究紀要35 (公財) 部文理
99. 石坂洋 2017 「「桃屋」集落の構造—高麗山周辺の石碑を中心とした分析—」「[八ヶ岳]考古学28」震災時代化研究会
100. 谷藤保彦・番谷義彦 2018 「「桃屋」集落の構造(敷形)「[八ヶ岳]考古学36」(公財) 部文理
101. 鈴木健雄 2018 「「鶴坂」道跡前にておる土器式の構造(敷形)「[八ヶ岳]考古学37」(公財) 地域考古学研究会
102. 山口逸弘 2018 「八ヶ岳・塔ノ原山城跡の西古代遺跡」「ぐんま県立文書」第5号「[八ヶ岳]考古学32」群馬県地文研究協議会
103. 大木伸一郎 2019 「「高麗山北麓北側山城跡の城壁構造と土器について」」研究紀要37 (公財) 部文理
104. (財) 部文理・国交省 2002 「長野野一本道跡・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書」第1集
105. (財) 部文理・国交省 2002 「八ヶ岳・八坂大門発掘調査 (1)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第2集
106. (財) 部文理・国交省 2003 「久々利道跡・中越日置跡・八ヶ岳道跡・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第3集
107. (財) 部文理・国交省 2004 「久々利道跡 (2)・中越日置跡 (2)・八ヶ岳道跡 (2)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第4集
108. (財) 部文理・国交省 2005 「橋本村中越道跡 (2)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第5集
109. (財) 部文理・国交省 2005 「川原野一本道跡 (2)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第6集
110. (財) 部文理・国交省 2006 「橋本村中越道跡 (3)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第7集
111. (財) 部文理・国交省 2006 「立石且田道跡・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第8集
112. (財) 部文理・国交省 2006 「甲斐道跡・高麗石道跡・八ヶ岳道跡・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第9集
113. (財) 部文理・国交省 2006 「高麗石道跡 (4)」八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第10集
114. (財) 部文理・国交省 2006 「立石道跡・高麗石道跡・八ヶ岳道跡・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第11集
115. (財) 部文理・国交省 2007 「下原道跡 (1)・八ヶ岳・八坂大門建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書第12集
116. (財) 部文理・国交省 2007 「(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)・(7)・(8)・(9)・(10)・(11)・(12)・(13)・(14)・(15)・(16)・(17)・(18)・(19)・(20)・(21)・(22)・(23)・(24)・(25)・(26)・(27)・(28)・(29)・(30)・(31)・(32)・(33)・(34)・(35)・(36)・(37)・(38)・(39)・(40)・(41)・(42)・(43)・(44)・(45)・(46)・(47)・(48)・(49)・(50)・(51)・(52)・(53)・(54)・(55)・(56)・(57)・(58)・(59)・(60)・(61)・(62)・(63)・(64)・(65)・(66)・(67)・(68)・(69)・(70)・(71)・(72)・(73)・(74)・(75)・(76)・(77)・(78)・(79)・(80)・(81)・(82)・(83)・(84)・(85)・(86)・(87)・(88)・(89)・(90)・(91)・(92)・(93)・(94)・(95)・(96)・(97)・(98)・(99)・(100)・(101)・(102)・(103)・(104)・(105)・(106)・(107)・(108)・(109)・(110)・(111)・(112)・(113)・(114)・(115)・(116)・(117)・(118)・(119)・(120)・(121)・(122)・(123)・(124)・(125)・(126)・(127)・(128)・(129)・(130)・(131)・(132)・(133)・(134)・(135)・(136)・(137)・(138)・(139)・(140)・(141)・(142)・(143)・(144)・(145)・(146)・(147)・(148)・(149)・(150)・(151)・(152)・(153)・(154)・(155)・(156)

157. (公財) 都理文・國交省 2018 「下関遺跡（1）ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第59集」  
158. (公財) 都理文・國交省 2018 「下関原跡跡（2）ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第60集」  
159. (公財) 都理文・國交省 2019 「下関原跡跡（3）ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第61集」  
160. (公財) 都理文・國交省 2019 「下關原Ⅰ遺跡 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第62集」  
161. (公財) 都理文・國交省 2019 「下關原Ⅱ遺跡 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第63集」  
162. (公財) 都理文・國交省 2019 「下關原Ⅲ遺跡（2）ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第64集」  
163. (公財) 都理文・國交省 2019 「下關原Ⅲ遺跡（2）西久保Ⅲ遺跡 ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第65集」  
164. (公財) 都理文・國交省 2019 「下關原湖岸Ⅲ遺跡（3）ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第66集」  
165. (財) 都理文 1998 「長野原久保ノ遺跡 船出町野原川河床市場船道路（概要）」  
166. (財) 都理文 2012 「長野原遺跡 社会資本整備組合交付企事業（活力創出基盤整備）」  
167. 國學院大學文学部考古学研究室 2017 「群馬県吾妻郡吾妻町野原町の家以外の遺跡」  
168. 國學院大學文学部考古学研究室 2014 「年度発掘調査報告書」  
169. 谷口康一 2019 「豊男山遺跡と駿河の遺跡における穂耳期人の発掘調査」  
170. 佐藤 稔 2019 「国家公園駿河の出土の縄文早期人骨」  
171. 米田 稔 2019 「駿河の駿河の縄文早期人骨における同位体分析」  
172. 萩田信人郎・水野文男 2019 「ミトコンドリアDNAからみた駿河の駿河の遺伝子系統」  
173. (財) 都理文 2005 「年報24」  
174. (財) 都理文 2006 「年報25」  
175. (財) 都理文 2007 「年報26」  
176. (財) 都理文 2008 「年報27」  
177. (財) 都理文 2009 「年報28」  
178. (財) 都理文 2010 「年報29」  
179. (財) 都理文 2013 「年報32」  
180. (財) 都理文 2014 「年報33」  
181. (財) 都理文 2015 「年報34」  
182. (財) 都理文 2016 「年報35」  
183. (財) 都理文 2017 「年報36」  
184. (財) 都理文 2018 「年報37」  
185. (財) 都理文 2019 「年報38」  
186. (財) 都理文 1995 「遺跡は今 第1号」  
187. (財) 都理文 1996 「遺跡は今 第2号」  
188. (財) 都理文 1996 「遺跡は今 第3号」  
189. (財) 都理文 1997 「遺跡は今 第4号」  
190. (財) 都理文 1997 「遺跡は今 第5号」  
191. (財) 都理文 1998 「遺跡は今 第6号」  
192. (財) 都理文 1999 「遺跡は今 第7号」  
193. (財) 都理文 2000 「遺跡は今 第8号」  
194. (財) 都理文 2000 「遺跡は今 第9号」  
195. (財) 都理文 2000 「遺跡は今 第10号」  
196. (財) 都理文 2002 「遺跡は今 第11号」  
197. (財) 都理文 2003 「遺跡は今 第12号」  
198. (財) 都理文 2004 「遺跡は今 第13号」  
199. (財) 都理文 2006 「遺跡は今 第14号」  
200. (財) 都理文 2007 「遺跡は今 第15号」  
201. (財) 都理文 2008 「遺跡は今 第16号」  
202. (財) 都理文 2009 「遺跡は今 第17号」  
203. (財) 都理文 2010 「遺跡は今 第18号」  
204. (財) 都理文 2011 「遺跡は今 第19号」  
205. (財) 都理文 2012 「遺跡は今 第20号」  
206. (財) 都理文 2013 「遺跡は今 第21号」  
207. (財) 都理文 2014 「遺跡は今 第22号」  
208. (財) 都理文 2015 「遺跡は今 第23号」  
209. (財) 都理文 2016 「遺跡は今 第24号」  
210. (財) 都理文 2017 「遺跡は今 第25号」  
211. (財) 都理文 2018 「遺跡は今 第26号」  
212. (財) 都理文 2019 「遺跡は今 第27号」  
213. 順正洋 2008 「天明浜に生まれた数多の謡一長野原町東宮遺跡」  
214. 丹山陽一 2012 「東宮遺跡・八代城下の歴史」  
215. 岩崎泰一・中沢 勝 2015 「西宮遺跡・西宮跡第一巣廻した江戸時代の山廻屋村」  
216. 藤井利樹・麻生和也 2015 「江戸の遺跡・見えてきた上田原の山廻屋村」  
217. 中沢 勝 2016 「下関原遺跡・大間記念碑下から見えた上田原時代の山廻屋村」  
218. 闇柳堂・小林義夫 2016 「今か戸遺跡・大間記念碑下に隠っていた繩文時代の石住居跡」  
219. 山口尚弘 2016 「400年前の遺跡・江戸時代の山廻屋村」  
220. 石坂 雄・鶴山雅正 2017 「西宮遺跡・西宮跡第一巣廻した江戸時代の山廻屋村」  
221. 寺内 寛・石川 真・岡 明愛・飯田一郎 2018 「西宮遺跡・江戸時代の山廻屋村」  
222. (公財) 都理文 2015 平成27年度遺跡保存会・「長野原町石川原遺跡の調査」  
223. (公財) 都理文 2016 平成28年度遺跡保存会・「長野原町石川原遺跡の調査」  
224. (公財) 都理文・長野原町教育委員会 2018 平成28年度遺跡保存会・「長野原町石川原遺跡の調査」  
225. (公財) 都理文 2012 -平成24年定期新情報解説 第1回「舟曲領域の埋蔵文化・古代人の心」  
226. (公財) 都理文 2016 平成28年度定期新情報解説 第1回「舟曲領域の埋蔵文化・古代人の心」  
227. (公財) 都理文 2017 平成29年度定期新情報解説 第1回「ようがえった江戸時代の村・天明三年浅間記流下の発掘調査から」  
228. (公財) 都理文 2018 平成29年度定期新情報解説 第1回「江戸時代の山廻屋村」  
229. (公財) 都理文 2019 平成30年度定期新情報解説 第1回「古江の身替身」  
230. (公財) 都理文 2019 令和元年度定期新情報解説 第1回「ハッ場の縄文時代」  
231. (公財) 都理文 2019 令和元年度定期新情報解説 第2回「江戸時代の大間記念碑で埋葬した村」  
232. 黒澤昭弘 2010 「埋蔵文化財講座」  
233. 佐野和也 2014 「埋蔵文化財講座」  
234. 山口逸弘 2016 「埋蔵文化財講座」  
235. 藤森康雄 2016 「埋蔵文化財講座」  
236. 関 康明 2016 「埋蔵文化財講座」